

問1 近年、日本の商業やサービス業が東南アジアへ積極的に進出しています。2000年から2018年にかけての統計において、東南アジア全域で人口が増加し、1人当たりの国民総所得（GNI）が数倍に成長している状況を踏まえ、企業が進出を判断する主目的となる背景として最も適切なものはどれですか。（2022年 静岡公立入試 類似）

1. 人口の増加と経済水準の向上により、商品やサービスを消費する市場としての価値が拡大したため。
2. 豊富で安価な労働力を大量に確保し、工業製品を低コストで製造して日本へ逆輸入するため。
3. 広大な土地を利用して、天然ゴムや油やしなどの特定の農作物を育てるプランテーションを開発するため。
4. ASEANの結成によって域内の関税が撤廃され、原材料を安く調達して他地域へ輸出する拠点にするため。

問2 日本の食料輸入において、魚介類や野菜・果実の輸入相手国として1位を占める国との貿易関係について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。（2017年 沖縄公立入試 類似）

1. 地理的な近接性と生産コストの低さを背景に、日本のスーパーマーケットなどで販売される生鮮食品や加工食品の主要な供給源となっている。
2. 広大な国土を活かした企業的な大規模農業が特徴であり、主に小麦やトウモロコシといった穀物の供給において1位となっている。
3. 熱帯の気候を利用したプランテーション農業が盛んであり、バナナやエビなどの特定の品目に特化した輸出が中心である。
4. 広大な乾燥帯での放牧による畜産が盛んであり、牛肉や羊毛といった畜産物の輸入額において不動の1位を維持している。

問3 西アジアに位置するサウジアラビアの地理的・経済的特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。（2025年 長野公立入試 類似）

1. 広大な砂漠が広がるアラビア半島に位置し、豊富な石油資源を背景に世界有数の産油国となっている。
2. アフリカ大陸の北部に位置し、ナイル川流域を中心に古代文明が栄えた歴史を持つ。
3. 南アジアのインド亜大陸に位置し、ヒマラヤ山脈からの豊かな水資源を利用した稲作が盛んである。
4. 東南アジアの島国であり、熱帯雨林の気候を活かした天然ゴムの生産が世界一である。

問4 中国で長年実施された人口抑制政策の影響を、人口ピラミッドの変化から説明したものととして、最も適切な内容を選択してください。（2018年 徳島公立入試 類似）

1. 0歳から14歳の若年層の割合が極端に狭まっており、出生数が抑制されている
2. 経済発展に伴い乳児死亡率が低下したため、ピラミッドの底が非常に広がっている
3. 高齢者の割合が他の先進国と比較して極めて低く、ピラミッドの頂点が鋭くなっている
4. 生産年齢人口の割合が拡大し続け、若年層から高齢層までが均等な釣鐘型になっている

問5 世界の小麦と米の生産状況について、2014年の統計資料に基づいた説明として最も適切なものはどれかを選びなさい。（2018年 大阪公立入試 類似）

1. 小麦の生産量で17.3%、米の生産量で27.9%を占めていずれも世界1位である中国は、巨大な人口を抱えるため国内消費量も多い。
2. 米の生産量で上位4位に入るインドネシアやバングラデシュは、同様に小麦の生産量においても世界トップクラスである。
3. 小麦の生産量において第3位のロシアや第4位のアメリカ合衆国は、米の生産量においても世界1位または2位を占めている。
4. 乾燥した気候に適した小麦はオーストラリアやフランスが世界1位と2位を占め、温暖湿潤な気候に適した米は中国とインドが上位を占める。

問6 インドは14億人に迫る膨大な人口を抱え、国全体の経済規模（GDP）は世界でも上位に位置していますが、一人ひとりの豊かさや産業の構造という点では、アメリカやドイツなどの先進国とは異なる特徴が見られます。インドの経済状況を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2022年 秋田県公立入試 類似）

1. 膨大な人口を抱えているため、一人あたりのGDPは低く、第3次産業に就業する人口の割合も先進国に比べると低い段階にある。
2. 人口の多さを生かした工業化が進んでいるため、一人あたりのGDPはドイツを上回っており、第3次産業人口の割合も極めて高い。
3. 人口は多いものの、IT産業の急成長によって一人あたりのGDPはアメリカ並みに高く、農業に従事する人口はほとんど存在しない。
4. 労働力不足を解消するために機械化が徹底されており、一人あたりのGDPが高く、第3次産業よりも第2次産業の人口割合が圧倒的に高い。

問7 アジアの諸地域のうち、タイ、インドネシア、ベトナムなどの国々が含まれる地域に該当するものを次の中から選びなさい。（2021年 大分県公立入試 類似）

1. 東南アジア
2. 南アジア
3. 中央アジア
4. 東アジア

答え合わせ・解説

問1	答え 1 人口の増加と経済水準の向上により、商品やサービスを消費する市場としての価値が拡大したため。	2000年代以降の東南アジアでは、インドネシアを筆頭に人口が増え続けていることに加え、1人当たりの国民総所得が大幅に上昇しています。これにより、現地の人々の購買力が高まっており、単なる「安価な労働力を提供する生産拠点（工場）」としてではなく、日本の商品やサービスを売り込む「市場（消費地）」としての魅力が飛躍的に高まったことが、サービス業の進出を加速させています。
問2	答え 1 地理的な近接性と生産コストの低さを背景に、日本のスーパーマーケットなどで販売される生鮮食品や加工食品の主要な供給源となっている。	2008年時点の統計で農水産物の輸入額1位である中国は、日本に近いという利点があるため、輸送時間が短く済む野菜などの生鮮食品の輸出に適しています。また、安価な労働力を背景に、現地で栽培・加工してから日本へ輸出する「開発輸入」も盛んに行われてきました。
問3	答え 1 広大な砂漠が広がるアラビア半島に位置し、豊富な石油資源を背景に世界有数の産油国となっている。	サウジアラビアは国土の大部分が砂漠ですが、ペルシャ湾沿岸を中心に世界最大級の石油埋蔵量を誇ります。この石油資源を活かして、石油輸出国機構（OPEC）などでも中心的な役割を果たしています。他の選択肢は、それぞれエジプト、インド、東南アジア諸国の特徴です。
問4	答え 1 0歳から14歳の若年層の割合が極端に狭まっており、出生数が抑制されている	一人っ子政策によって長期間にわたり出生数が厳しくコントロールされた結果、統計資料における人口ピラミッドの底部、すなわち0歳から14歳の若年層の幅が極端に狭まる形状となりました。これは人口抑制には成功したものの、急速な少子高齢化を招く要因となり、将来の労働力不足といった新たな社会問題を生み出すこととなりました。
問5	答え 1 小麦の生産量で17.3%、米の生産量で27.9%を占めていずれも世界1位である中国は、巨大な人口を抱えるため国内消費量も多い。	中国とインドは、世界の主要な主食である小麦と米の両方で世界トップの生産量を誇りますが、これは自国の人口が多いため国内での需要が極めて高いことが背景にあります。一方で、ロシアやアメリカ合衆国は小麦の生産量が多いものの米の生産順位は高くなく、逆にインドネシアやバングラデシュは米の生産は盛んですが小麦の生産量は上位には含まれません。
問6	答え 1 膨大な人口を抱えているため、一人あたりのGDPは低く、第3次産業に就業する人口の割合も先進国に比べると低い段階にある。	インドは世界最大級の人口を抱えているため、国全体の国内総生産（GDP）は大きくなりますが、それを人口で割った「一人あたりのGDP」は、先進国と比較するとまだ低い水準にあります。また、経済発展の途上にあるため、サービス業などの第3次産業に従事する人の割合も、アメリカやドイツなどの先進国ほど高くはありません。このように、人口の多さと個人の経済水準、および産業構造のギャップがインドの大きな特徴です。
問7	答え 1 東南アジア	タイやベトナムはアジア大陸の南東部に位置し、インドネシアは数多くの島々で構成される国家です。これらの国々は、地域の経済発展や安定を目指し、ASEAN（東南アジア諸国連合）を組織して協力関係を築いています。